

# 震災 あれから1年



△3月11日（日）、町民バスケットボール大会に集まった町民全員が開会前に震災犠牲者に黙祷を捧げました

## この1年を振り返って

昨年（2011年）の3月11日に発生した大震災から1年が過ぎました。未曾有の災害は、被災地の方々はいまもなお、当時、直接被害の少なかつたわたしたちの生活にも影響を与え、停電、そして物不足に陥った町に、底知れない不安を覚えた人も多かつたと思います。

一方でこの1年間、被災地へさまざまな支援活動で、町や関係団体、町民の皆さんと一緒に取組んで、被災地復興への大きな原動力になってきました。

あれから1年が過ぎましたが、町には、今も団体や個人からの義援金が寄せられています。「イベントを開催したときの収益金」「チャリティで集めた会費」「少しずつ貯めていた小銭」など、義援金に至った経緯はそれぞれですが、被災地の方々の役に立ちたいという町民の思いはきつと被災地の方々に届いているはずで

す。現在まで、町には700万円近い多額の義援金が皆さまから寄せられ、日本赤十字社を通じて被災地の方々に贈っています。そして町では、皆さまのこの善意を大切に、できるだけ続けていこうと、義援金の受付を日本赤十字の義援金受付延長にもない今年の9月30日まで延長することになりました。



	<b>死者</b>
	<b>1万5854人</b>
	<b>行方不明者</b>
	<b>3155人</b>
	<b>避難者</b>
	<b>34万3935人</b>

死者・行方不明者数は2012年3月10日、避難者数は2月23日現在

・写真は昨年4月14日、町から義援金を贈った釜石市の惨状。同行取材した職員もあまりの光景に言葉を失いました。

・現在も多くの方が行方不明、そして避難生活を強いられています。被災した方々にとって震災はまだ終わっていません。



△3月6日（火）、町内の集会施設に石油ストーブが配備されました

## 犠牲になられた 方々を追悼

震災の日が近づくに連れ、町内の各所で震災で犠牲になられた方々への追悼が行われていました。3月6日（火）には、町立中央保育所で避難訓練が行われ、終了後に園児たちが黙祷をし、献花が行われました。また、当日の3月11日（日）には、体育センターで町民バスケットボール大会が行われ、大会の開会前150人へのほる町民の皆さんが、犠牲者の御霊に黙祷を捧げました。

## 震災から見えた課題

大震災発生後、町では避難所の寒さ対策、災害時の高齢者の見守り体制、町民への情報伝達などの課題が浮き彫りになり、この1年の間、町ではさまざま防災対策を行ってきました。

避難所となる各町内の集会所へ、電源を必要としない石油ストーブの配備、冬期高齢者世帯等一斉見守り活動の実施、放送機材等が充実した最新小型消防車の配備、各町内へ自主防災組織づくりの呼び掛けなどが主なところです。

町の防災対策も大切ですが、住民一人一人が「自らの地域は自ら守る」という考え方にたつて、自主的に防災活動を行うことが、もっとも防災体制の強化に繋がります。大震災を教訓に、わたしたちの防災意識を高めていきたいと思います。

・写真右／3月6日（火）、中央保育所で避難訓練後に行われた追悼式。年長の園児たちが、今年園児自らが育てた花を犠牲者の方々に献花していました。



・写真左／3月9日（金）、岩手県釜石小学校では、児童たちが復興への願いをのせた風船を大空に放ちました。

